

群馬大学教育学部附属特別支援学校 授業公開及び授業研究会 実施報告

群馬大学教育学部附属特別支援学校
研究主任 三澤 哲彦

11月10日（金）に、約150名の方にご参会いただき、本校「授業公開及び授業研究会」を開催いたしましたことをご報告いたします。

本校は、昨年度より「人とかかわりながら学びを深める児童生徒の育成」を研究主題とし、「交流及び共同学習」「地域との連携・協働」を中軸に据えた実践に取り組んでおります。

研究においては、一人一人の子どもが、他者とかわり合いながら「学習のねらい」に迫る授業を一層確かにすることを目指し、『共に学ぶ』『確かな学びを得る』授業づくり」として、授業づくりの過程を整理しました。そして、この授業づくりの過程に基づき、子ども一人一人の教育的ニーズと発達の段階に応じた学びの場において、授業を構想、実践、評価することに取り組んできました。

授業公開当日は、午前中は自由参観として全ての授業を公開し、午後には上記の研究内容に基づいて小・中・高の各々が1授業ずつ提案授業を公開しました。

小学部では、自由参観授業の中で、校舎を共有する附属小学校との遊びをとおした交流及び共同学習を公開しました。ここで身に付けた力や、相互の関係性が、教科での交流及び共同学習につながっていることを参会者と共有しました。



小学部提案授業の様子

提案授業では、同学年・同年代の両校児童が、かわり合いながら共に国語科のねらいに迫ることを目指しました。授業づくりにあたっては、両校教師の打合せの中で、①小学校の教科書教材「三年とうげ」の両校児童にとっての価値を見出すこと、②交流及び共同学習を単元計画の中に効果的に位置付けることを重視し、実践しました。

中学部では、自由参観授業の中で、園芸作業の授業を公開しました。正確に作業を行う上で、花と花の間の長さや、土の深さを捉えることに課題をもつ生徒が多いことを確認しました。

そこで、提案授業として、数学科において、生徒が長さを測ったり比べたりする利便性を実感することができる、「教科の学び」をより追究することを目指した授業を構想し、公開しました。授業づくりにあたっては、学習内容の系統表を試作した上で、①授業づくりの基点である「学習のねらい」をできる限り明確に設定すること、②育成を目指す資質・能力の観点から「何ができるようになるか」「何が身に付いてきているか」を複数の教師で検討し、授業改善につなげることを重視し、実践しました。



中学部提案授業の様子

この授業づくりの考え方が、今後、教科における交流及び共同学習をより確かに構想することにつながると考えています。

高等部では、自由参観の中で、学校周辺地域の人と共に地域の公園を清掃作業する授業を公開しました。生徒が自分で立てた目標に向かって実際に地域の公園の清掃作業に取り組み、自己のよさと課題を見出すことを重視しました。

提案授業では、この作業学習と関連を図りながら、生徒が学ぶことと将来のつながりを考え、主体性を高めることを目指した進路学習の授業を公開しました。授業づくりにあたっては、働くことの意義や価値に気付くことを大切に、①地域の人々の思いや願いを授業に取り入れ、「地域をきれいにする」という共通の課題に取り組む関係を築いていくこと、②共通の課題を生徒一人一人が自分の課題として捉え自己の目標を設定できるようにすることを重視し、実践しました。

各授業研究会では、授業改善という視点から、活発な協議がなされました。参会者からは、「かかわり合い、学びあう児童の姿が印象的だった」「学んだことがどうつながるか見える授業だった」「地域の人と連携・協働する授業としてモデルとしたい」といった感想が挙がりました。

授業研究会後には、文部科学省 丹野哲也先生、国立特別支援教育総合研究所 明官茂先生から、研究助言をいただきました。

丹野先生からは、次期学習指導要領の「教科の見方・考え方」「カリキュラム・マネジメント」「社会に開かれた教育課程」といったキーワードと、本校の実践とのつながりを示していただきました。また、「ユニバーサルデザイン2020」との関連から、交流及び共同学習が一層重要になること、今後は授業時数との関連を図り、教育課程全体の位置づけを考慮して交流及び共同学習を推進していく必要があること、成果と課題を一層発信していくべきであることなど、ご示唆を賜りました。

明官先生からは、自由参観授業を含めた全ての授業における、子どもの姿と教師のかかわり方についてお話しをいただきました。参会者一同、日常のかかわりの大切さを改めて深く感じるとともに、提案授業と自由参観授業とのつながりを捉えることができました。

本年度の「授業公開及び授業研究会」では、県内特別支援学校をはじめ、県内の小・中・高等学校、さらには県外の特別支援学校や就労先の方々と、例年以上に、多様なお立場の方々にご参会いただき、様々な視点から意見を交流することができました。本校の取組に関心を持って、来校してくださった皆様に改めて感謝申し上げます。

今後も「子どもがいて学校がある」という本校の信条に基づいた地道な教育実践を重ねるとともに、実践から見出した成果と課題を発信していきたいと考えております。今後ともご指導、ご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。



高等部提案授業の様子



小学部授業研究会の様子



研究助言の様子